

# 担い手通信

第15号  
平成23年  
1月発行

大仙市集落営農・法人化支援センター  
大仙市太田町  
横沢字堀ノ内46  
Tel 0187-88-1920



大仙市農林商工部長  
藤原 薫

本市も大きな影響は避けて通れないものと感じております。市では、農家の代表や学識経験者の方々などに委員をお願いし、現在新たな農業振興計画を策定しているところとす。このところの農業政策の変化や経済の変化、そして気象の変化などを踏まえ『変化に耐え得る強い農業の実現』をテーマに三月までには計画を仕上げることをしております。これを踏まえて、新年度から新たな施策を実施し、積極的に農業振興に努めてまいります。

これまで認定農業者や農業法人、集落営農組織の組合員の皆様方にお届けしている「担い手通信」は、様々な農業施策の内容や担い手の皆様方への支援事業などをお伝えするために、平成二十年の一月より発行し今年で四年目となりました。今後も皆様の農業経営の一助となりますよう、大仙市集落営農・法人化支援センターの指導員が中心となり、新たな農業施策、各種研修会などの情報をお伝えしてまいります。今年も、職員一同、関係機関と一体となり大仙市農業の発展に取り組んでまいりますので、今後ともよろしくお願いたします。



大仙市集落営農・法人化支援センター所長  
藤澤 寿一

大仙市集落営農・法人化支援センターでは、激しく変貌する農業政策に対して全農家が効率的かつ安定した経営に取り組めるよう、本年も県や農協の協力をいただきながら、制度の説明や情報提供のほか、組織作りと法人化に向けての支援を強化し、大仙市農業の担い手が政策に対応できるように努めてまいります。

波騒は世の常である。波にまかせて泳ぎ、上手に雑魚は歌い雑魚は踊るけれど誰が知ろう百尺下の水の心を

吉川英治「宮本武蔵」の一節より

農業も我々も波を越えなければならぬ。やる気の中に光明は己と輝いてくる。それぞれの将来は、今この瞬間ここにある。今ここで頑張らず、いつ頑張る。



## ラインナップ

- 年頭のご挨拶を申し上げます。
- 大仙農業元気賞を3名の方が受賞しました。
- 集落営農組織連絡協議会で秋期研修を開催しました。
- 認定農業者を対象にパソコン簿記講習会が開催されました。

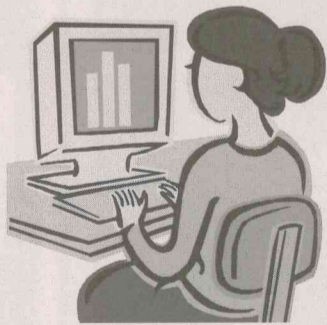
## 認定農業者を対象に、パソコン講習会が開催されました

平成22年度パソコン農業簿記講習会が11月15・16日、25・26日の2回開催されました。

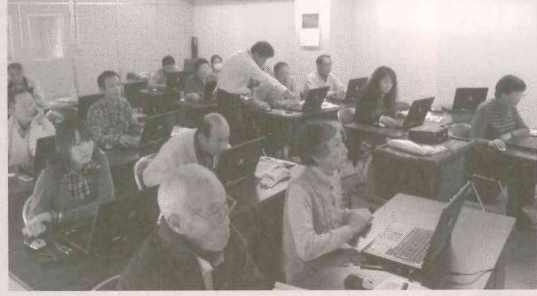
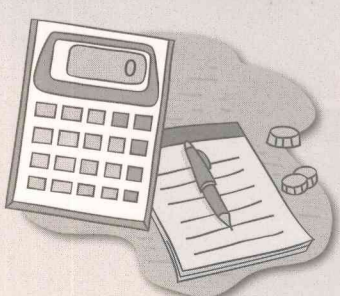
これは、秋田県農業会議の主催によるもので、認定農業者やそのパートナー（配偶者や後継者）を対象として定員20名程度で行なう予定でしたが、申込者が多数となり2回に分けて行なわれました。

内容は、パソコン簿記ソフト（ソリマチ社「農業簿記8」）を使用して行われ、日々の記帳入力から、税金申告の決算処理まで講習が行われました。

また、税務署職員による電子申告納税システム（e-Tax）の説明が行なわれました。



講習会の様子。皆さん熱心に受講されていました。



集落営農組織の代表者らが、秋田県立大学の長濱教授を交えて法人の経営について研修を行ないました。法人の経営内容や組合員への利益配分の方法、地代・作業料金の設定状況など、多くの意見交換が行なわれました。



主に秋収穫メロンと小菊について栽培状況などの話を聞いた後、現地研修をして理解を深めました。

## “集落営農組織連絡協議会”の秋期研修会

大仙市集落営農組織連絡協議会（会長：四ツ屋第一集落営農組合長 草薙節雄）では、秋期研修会を開催しました。今回の研修会のテーマは『法人の経営について』として、大仙市大曲にある「農事組合法人かわのめ」を会場に行なわれました。

# 第3回 大仙農業元気賞に3人を表彰

## 大仙市農業の牽引者として期待!!

大仙市内に居住する若手農業者で、新たな農業に取り組み、地域や関係団体等のリーダーとして、将来の大仙市農業を牽引する方々を表彰するため制定した『大仙農業元気賞』も今年で3回目を迎えました。

今回の受賞者は、農業関係団体等からの推薦のあった方々について10月6日に開催された選考委員会（会長：藤澤壽一大仙市集落営農・法人化支援センター所長）を経て、次の3名に決定し、12月2日に開催された表彰式で表彰をしました。



いとうちあき  
**伊藤千秋さん**  
(大仙市南外 昭和58年生)

大曲農業高校を卒業後、フロンティア農業者研修を経て平成16年就農。花き（トルコギキョウ）とアスパラガスを担当。

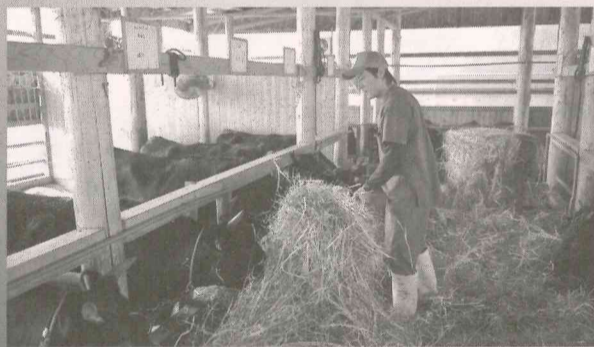
就農希望の高校生を受け入れ経営の状況を紹介するなど就農啓発に努め、都市消費者との交流事業では農作業体験の場を提供するなど積極的な活動を行なっています。



さとうたくみ  
**佐藤匠さん**  
(大仙市横堀 昭和58年生)

大学を卒業後、フロンティア農業者研修を経て平成20年に就農、研修中に家畜人工授精師、平成21年には家畜受精卵移植師の資格を取得。

受精卵生産やそれを用いた優良雌牛の積極的な自家保留のほか、自分が受講した農業者研修の研修生の受け入れなど、畜産における後継者の育成にも取り組んでいます。



たむらたつのり  
**田村辰徳さん**  
(大仙市太田町中里 昭和58年生)

高校を卒業後、フロンティア農業者研修・太田農業振興情報センター農業技術研修を経て平成16年に就農し、複合経営を営む田村家の中で花き（菊）を担当。

パイプハウス16棟で多様な菊を栽培し、雪に強い大型ハウス6棟で春の雪解けを待たずに作業に取り組めるようにしています。



### 〈表彰式の様子〉



多数の来賓が出席して行なわれた表彰式



表彰式に臨む3氏と式辞を述べる栗林市長

佐藤 匠氏 ◯ 伊藤 千秋氏 ◯



田村 辰徳氏 ◯